サイエンスカフェの概要について（事後報告）

1. 開催日時：令和4年3月2日（水） 18時30分～19時40分
2. 開催場所：三省堂書店札幌店内 ブックス&カフェ UCC（札幌市中央区北五条西2-5JRタワー札幌ステラプレイス5F）
3. 関係団体等：
（主催）三省堂書店札幌店内ブックス&カフェ UCC
（共催）北海道大学 CoSTEP、日本学術会議北海道地区会議
4. 役割：
（司会）奥本 素子（北海道大学 CoSTEP 准教授）
（講師）河原純一郎（北海道大学大学院文学研究院教授／日本学術会議連携会員）
（支援）宇山 智彦（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授／日本学術会議会員）・
福浦 友香（北海道大学 CoSTEP 博士研究員）・三省堂書店
5. 概要：
（題目） 「気づける不思議、見逃す仕組み～認知心理学から広告を読み解く～」
（内容） 普段目にしている広告を切り口に、人の認知のしくみを認知心理学によって解き明かすという趣旨で行われた本会は、トピックの親しみやすさと講師による実験結果を交えた学術的見地からの解説がかみ合い、わかりやすくも深い学術への理解を促進する会となった。講師からの話題提供では、適宜参加者にクイズ形式で情報の見逃しを体験する仕掛けを設け、双方向的な学術サロンとなった。終盤では質疑応答の時間を設け、年齢による認知システムの変化や講師が研究している「魅力」についての観点と本トピックとの関連について議論を交わし、サイエンスカフェは盛況のうちに終了した。
6. 参加人数 : 12名
講演者等 : 6名（講師1名、司会1名、カフェ支援2名、三省堂2名）
その他の参加者 : 2名
7. 特記事項：
新型コロナウイルス感染症拡大予防のため定員15名という少人数に限定をしたうえで、対面で行った。参加者は間隔をとって座り、通常よりも短いながらもサイエンスカフェの雰囲気を楽しんだようだった。また、講師からは現在日本学術会議の中で活動している分科会「法と心理学」と本カフェの内容との関係についても語られ、日本学術会議の社会的意義を伝える機会となった。また終わりの挨拶として、宇山会員が、学術会議の社会的発信の活動における今回の企画の位置づけを語り、日本学術会議の活動についても参加者に共有された。参加者からは、あふれている情報の中から自分に必要な情報や正確な情報をチョイスし、嘘情報に惑わされないためにはどうすればよいかという関心から参加し、面白かった、などの感想が寄せられ、特に広告・情報発信やチラシのデザインをしている方々にとっては、見る側の注意・意識の仕方が分かり、大変有益だったようである。